特別賞（釧路新聞社賞）

街づくりから差別のない未来に

根室市立おちいし義務教育学校　七年　佐藤　楽風

皆さんは「差別」という言葉を聞いた事がありますか。差別は違う国の話、肌の色の違いによるもの、などが思いあたるかもしれませんが、差別は日本で日常的に今でも起こっている卑劣なものです。差別には様々な種類がある事をご存知ですか。例えば、人種差別、男女差別などがあります。これ以外にもたくさんの種類の差別がありますが、なかでも私は「障害者差別」ということについて考えてみました。

障害者差別とは、障害をもっているからと、その方に対して対応が違ったり、勝手に条件をつけたりするような行為です。障害のある方はなりたくてなったわけではありません。私はこのような行為がなくなって欲しいと心から願っています。なぜなら、差別をすると、差別を受けた相手の心が傷ついたり、それで命を失ったりすることさえあるのです。そういった事が起こらないように、私は差別のない未来にしたいと思っています。

私が障害者差別について考えることになったきっかけは、学校の学習で保育所にインタビューをしに行ったことです。行く前までは、（子供達に話しかけられるかな）ととても不安でした。そして当日、保育所へ向かいました。たくさんの子供達がいました。とても楽しそうでした。子供達の様子を見ていると中には少し変わった子がいました。私はその子をすごい見てしまいました。なぜなら、他の子供達はみんなしっかりとやっていたのに、その子だけちゃんとしていなかったからです。

私は（どうしたのかな）と思うばかりでした。そしてお昼ご飯の時、なぜかその子だけが一人でいました。（何で一人なのだろう、他の子はみんな一緒に食べているのに）と思いました。私は障害をもっている子なのかな？と自分の中で思ってしまいましたが、勝手に決めつけるのも良くないと思い、その子を気にしないでおきました。それから子供達と遊んでいると、突然その子に何も言われず手を掴まれました。私はその時とてもびっくりしました。その子は私の手をもんだりねじったりして遊び、私は困って、何も言えませんでした。しかし、

その子からすると、（どうして話しかけてくれないの、何で喋んないの）と思っているかもしれないと考えました。このことがきっかけで、私は障害者の事をもっと知りたいと思い始めました。

　このような、私が（障害者なのかな）と決めつけてしまった経験から、知らず知らずのうちに差別を行ってしまっていることもあるのではないかと考え、差別をなくすにはどうしたらよいかを考えました。

　まず、差別をなくすために皆さんができる事は、助け合う事が大切だと思います。もし困ってる人がいても見て見ぬふりをするのではなく、助けてあげましょう。私も、町で見かけたら自分から積極的に話しかけて助けてあげたいです。私は以前、買い物に行った際に、親切な方に靴紐がほどけている事を教えていただき、とても助かりました。靴紐がほどけていたら怪我をするかもしれませんでした。そういう親切な方がいたおかげで、助け合う気持ちが差別をなくすための一歩として大切だと思えたのです。

　そして、障害者差別をなくすために、障害者に優しい街づくりが必要だと考えます。障害者の方が（住みやすい、いい街だな）と思ってくれたらやってよかったと思えるし、何より、町全体が障害者に配慮していると、そこに住む人やその町を訪れた人たちも優しくなれると思うからです。

　例えば、目が不自由な方のために、点字ブロックを街中につけたり、安全に信号を渡れるように、音の出る信号機をつけたりと様々な工夫ができると思いました。そのほかにも、足の不自由な方のために段差を少なくしたり、障害者も健常者も関係なく触れ合える場を設けたりすることもできるのではないかと思います。

　優しい街づくりは優しい人達を溢れさせ、未来に差別のないすてきな世の中を作り出すと思います。